

第 33 期目録委員会記録 No.17

第 17 回委員会

日時：2012 年 10 月 13 日（土）14 時～17 時

場所：日本図書館協会

出席：原井委員長、木下、河野、佐藤、藤井、古川、渡邊

資料提出：村上

<事務局>磯部

[ 配布資料 ]

1. 第 部ユニット X 資料（刊行方式）の特性に関する事項（継続資料）（3 ページ-A4、藤井委員）
2. 形態に関する事項比較（22 ページ-A4、村上委員）
3. 第 部 ユニット J 団体に対する AAP（第 1 次案）（6 ページ-A4、古川委員）
4. 大曲俊雄「ルビつき書名等の扱いについて」『整理技術研究』No.29（1991）（31 ページ-A4、古川委員）
5. 第 33 期目録委員会記録 No.16（案）（4 ページ-A4、事務局）

[ 報告事項ほか ]

1. 議事録の確認

第 16 回記録（資料 5）について確認した。

2. 書誌調整連絡会議について

渡邊委員から、10 月 12 日国立国会図書館で行われた平成 24 年度書誌調整連絡会議について、以下の報告があった。

国立国会図書館から、VIAF への加盟の報告があり、2008 年方針の総括と新しい方針への意見交換が行われた。

目録委員会から提出した意見に関連して、委員会に対して、NCR 改訂のスケジュールを聞かれ、2014 年度中に第 1 次案を目指しているという回答を行った。

3. 原井委員長が、今年度のうちに NCR 改訂作業について、いつまでに何をどこまで行うかという方針をまとめていくことと、記述全体を俯瞰できるように、現在作成中の「RDA 記述エレメント（作業中）」の進行を急ぐことになった。

[ 検討事項 ]

## 1. NCR 改訂について

各部分の担当委員から資料に基づいた説明があり、意見交換を行った。

### (1) 資料（刊行方式）の特性に関する事項（継続資料）（資料1）

- ・複製物の順序表示の取り扱いについて、RDA は複製物の方の順序表示を記録するとなっており、原資料の方を記録する NCR、AACR2 と異なっている。
- ・RDA の上記の場合、原本は関連する体現形の順序表示として記録するが、関連に関する第 27 章に具体的な記載はなく、実際にはどう記録するのか分からない。
- ・複製物には現 NCR の規定通り、原逐次刊行物の順序表示を基本にするのがよいのではないか。
- ・逐次刊行物の複製物は逐次刊行物として扱われるべきか。雑誌の形態で出るとは限らない。なお AACR2 では逐次刊行物と扱うことになっている。
- ・RDA では複製物のタイトルは、複製物から採る本則と原資料から採る別法が選べる。順序表示がどちらかに決まっているのは不自然で、タイトルと合わせて、複製物が原資料が選べるようになるべきでは。
- ・複製物の扱いは、記述総則の方で明記し、記述全体で整合性がとれるように考える必要がある。
- ・ISBD、RDA で複製物が大きい方針でどのように扱われているかを、藤井委員が調査することになった。

### (2) 形態に関する事項比較（資料2）

- ・各自内容を確認し、次回までに意見をメーリングリストに出すことになった。

### (3) 団体に対する AAP（資料3）

- ・職名と個人名の採否の判定は難しい。形の選択と実体の選択を区別して考えないといけない。
- ・語句の省略の例に挙げてある劇団は名称の一部と考えられるので、省略する必要はないのではないか。株式会社、社団法人などの例は必要で、株式会社、NPO 法人などを挙げた方がよい。省略すると分からなくなるものは、「ふれあい(NPO 法人)」などというように付記事項にした方が分かりやすい。
- ・自立した上位組織名を冠するということは、一番近い自立した名称をつけるという意味である。財務省の場合は日本を冠しなくて良いか、など日本をどうするか検討することが必要。
- ・下部組織と付属機関の境目が分かりにくい。名称原則でいくか実態原則でいくか。機関の実態はわかりにくいことがあるので、名称の形の方が作業として扱いやすい。
- ・名称だけで判断するなら、上部組織を付記事項にした方がよいかもしれない。
- ・付記事項が変わった場合は新しい標目を立てるのか。

- ・団体名と地名の関係もある。地名件名と同じ形にした方がいいのか。区別した方がいいなら、下部組織がある場合、じゃまになってしまうが、市役所などはつけておいた方が団体と分かってよいのでは。
- ・会議、大会など今まで、NDL では件名標目としては採っていたが、著者標目としては採っていなかったものをどうするか。イベント、オリンピックなど例がある方がよい。
- ・大学・大学院で一組織なのかなど、上下の関係が分かりにくいものや、連合大学院、研究プロジェクトなど横断的な組織が増えている。会議やプロジェクトなど団体の名称かどうか分からない場合など、いろいろな例を集める必要がある。
- ・新旧の字体についても検討する必要がある。

#### (4) ルビつき書名等の扱い(資料4)

- ・記述だけでなく、著作に対する典拠形アクセスポイントにも関連してくる。
- ・統一ヨミでは、NDL もルビを優先しているはず。複数付与できた時期もあり、1 つ選択する方が難しい。NII では VT で複数持つようになっており、表記が同じでもヨミが違えば異形アクセスポイントにしている。
- ・ルビ類似小活字は、副書名がすでにある場合、副書名に扱うのは難しいので、異形タイトルにするのが自然ではないか。
- ・どこまでがルビなのか。ルビと認定した場合、どう扱うのか。ヨミというエレメントがない。本タイトルはルビなしで行きたいが、NCR 上では記述の必要がある。ルビが漢字の時などは異形タイトルにするべきか。意味で考えて与えているものは異形タイトルとして扱うべきではないか。
- ・記述でのルビの扱いをタイトル担当委員が決める。標目だけでなく、責任表示など記述の部分でも考える必要がある。記述全体に関するヨミをどう扱うかという問題になる。

以 上

次回以降の委員会の予定

11月17日(土)

12月22日(土)